

PRECISIONS AND INSTRUCTIONS
FREESTYLE SKIING
EDITION NORTHERN HEMISPHERE

【日本語翻訳版 2018.01】

EDITION 2017/2018

Oberhofen November 2017

PRECISIONS AND INSTRUCTIONS FOR THE SEASON 2017/2018

Precisions approved by the FIS Council, Oberhofen (SUI) November 2017

Changes to the ICR Edition 2017

☆本書は【precfs1718northernhemisphere_English.pdf】の日本語翻訳版である。
☆翻訳内容、表現に原文（英文）との差異がある場合は原文（英文）が優先される。必ず原文（英文）を参照すること。

201.6.7

スピードスキーイベント

スピード1(S1)、スピードダウンヒル (SDH)、スピードダウンヒルジュニア (SDH Jun)、スピード2(S2)、スピードジュニア (S2J)

3041.3.2

手動計時の計算

電気計時システムが正常に作動しなかった場合は、次の方法で公式手動タイムを計算する。タイムが測定できなかった競技者の前3人分の手動計時タイムと電気計時タイムの平均誤差を算出する。手動計測タイムが必要となる前に、3人分の電気計時によるタイムがなかった場合、電気計時ができなかった競技者にもっとも近い競技者のタイム3つを用いて算出する。

手動で計測したタイムの活用

手動計測タイムは電動計時タイムとの誤差を補正後、公式結果に反映させることができる。

補正の計算：

タイムが測定できなかった競技者の前10名分の競技者の手動計時タイムから電動計時タイムを引く。前に10名分の競技者の電動計時タイムがない場合、後の競技者分を追加し、合計10名分とする。

10名の競技者のタイム差を合計し10で割り、小数点第三位を四捨五入(0.044の場合は0.04、0.045の場合は0.05)し、これを電気計時タイムを計測できなかった競技者の手動計測タイムの補正に適用しなければならない。

4507.8.3

スキークロスのスタートゲート規格

スキークロスのスタートゲートを用意しなければならない。スタートゲートの規格、電動式開放機器、そして予選のセットアップについては、タイミン
グブックレットを参照すること。

ヒンジ(蝶番)式のゲートは、それぞれ、幅100cm、高さ40cm。

各ゲートの外側同士の間隔は60cmであるべきである。

ハンドルは雪面から95cmの高さで、ヒンジゲートに平行であること。子どもやジュニアの競技会では、異なるハンドルの位置を準備すべきである。各ハンドルの規格は、長さ10cm、幅は3cm.4cmとすべきである。各ハンドル間の間隔は、80cmから90cmの間である必要がある。スキー板を保護するために、スタートゲートのスタート面には保護材が用いられなければならない。

ゲートが適切に作動するように、ゲート本体に十分な重量がなければならない。

~~ゲートは、単一の開放操作によって、外側に少なくとも45°以上開くようなシステムであること。~~

4511.4

スキースーツ

~~スキースーツは、パンツとトップが分かれた、ツーピースでなければならない。~~

~~アルペンのダウンヒル (DH)、スーパー-G (SG)、ジャイアントスラローム (GS)、スラローム (SL)、スピードスキーで使用されるウエアは認めない。基本素材は (編みこみ) 布であること。ゴム系、合成ゴム、皮、ビニール系の素材を使用していないこと。異なる素材の当て布はいかなる場合も布が主役として残っていれば、認める。~~

~~突起物のないプロテクターの使用を推奨する。~~

~~競技用品規格およびコマーシャルマーケティング規則を参照すること。~~

4511.5

プロテクション用品

~~競技用品規格およびコマーシャルマーケティング規則を参照すること。~~

~~防具バックプロテクター、パッドやその他防具は体に装着し、スキースーツ (上着) とは分離していなければならない。プロテクションとパッドは、ジッパ、マジックテープや他の方法でスキースーツに組み込んだり、スキースーツに固定してはならない。締め付けるための道具、たとえば、ゴムひも、ジッパ、ナイロンのひも、ボタン、スナップ、マジックテープ、他の方法で、スーツの素材を体に密着させて、服が自然にたれさがることを妨げてはならない。~~

4511.6

スキースーツ測定方法

~~競技用品規格およびコマーシャルマーケティング規則を参照すること。~~

~~スーツの計測素材の余裕は、それぞれの脚の太腿の中央部からスキーブーツの上部まで、その部位のあらゆる部分の周径囲に対して最低 80mm、そして肘と上腕二頭筋まで、その部分あらゆる部分の周径囲に対して最低 60mm、スキーブーツ底とパンツの脚の一番下の部分との垂直距離は、最高で 170mm でなければならない。~~

~~詳細は FIS 用具規則セクション E、6.1 を参照のこと。~~

~~測定規定より 2mm の許容差 (マテリアルの幅) と 5mm (パンツ丈) (計測機器にしるされている、もしくはマテリアルにおける実寸 4mm) は、1 回のみ認められるが、この場合、警告が与えられ、発表される。その後のコントロールにおいては、定められた規程内に収めなければならない。~~

競技用品規格およびコマーシャルマーキング規則

6.1

スキークロス

(フリースタイル国際競技規則 スキークロス 4511.4、[4511.5](#)、[4511.6](#)より)

スキースーツ

スキースーツは、パンツとトップが分かれた、ツーピースでなければならない。

アルペンのダウンヒル (DH)、スーパー G (SG)、ジャイアントスラローム (GS)、スラローム (SL)、スピードスキーで使用されるウエアは認めない。基本素材は (編みこみ) 布であること。ゴム系、合成ゴム、皮、ビニール系の素材を使用していないこと。異なる素材の当て布はいかなる場合も布が主役として残っていれば、認める。

突起物のないプロテクターの使用を推奨する。

防具バックプロテクター、パッドやその他防具は体に装着し、スキースーツ (上着) とは分離していなければならない。プロテクションとパッドは、ジッパー、マジックテープや他の方法でスキースーツに組み込んだり、スキースーツに固定してはならない。締め付けるための道具、たとえば、ゴムひも、ジッパー、ナイロンのひも、ボタン、スナップ、マジックテープ、他の方法で、スーツの素材を体に密着させて、服が自然にたれさがることを妨げてはならない。

スーツの計測素材の余裕は、それぞれの脚の太腿の中央部から[スキーブーツの上部脚のパンツの裾ま](#)で、その部位のあらゆる部分の周径囲に対して最低 80mm、そして肘と上腕二頭筋まで、その部分あらゆる部分の周径囲に対して最低 60mm、なければならない。

スキーブーツ底とパンツの脚の一番下の部分との垂直距離は、最高で 170mm でなければならない。

測定規定より 2mm の許容差 (マテリアルの幅) と 5mm (パンツ丈) (計測機器にしるされている、もしくはマテリアルにおける実寸 4mm) は、1 回のみ認められるが、この場合、警告が与えられ、発表される。その後のコントロールにおいては、定められた規程内に収めなければならない。